

事前学習・現地学習・事後学習

鹿児島県

修学旅行学習ノート

楽しみながら
学びを深めよう

平和学習



自然体験
環境学習



ブルー・
グリーン
ツーリズム



歴史文化
学習



鹿児島ってどんなところ？

鹿児島は日本の南西部に位置し、南北約600kmにおよぶ広大な県土を持ち、今も活動する桜島や多彩な温泉、日本初の国立公園である霧島、世界自然遺産の屋久島、奄美大島、徳之島など豊かな自然に恵まれています。さらに、鉄砲やキリスト教の伝来、明治維新に関する史跡や特攻に関する資料など日本の歴史に大きな影響を与えた歴史的資料が数多く残っています。

また、さつまいも、黒牛、黒豚などの農畜産業やブリ、カンパチの養殖などの漁業が盛んに行われている県です。



霧島



奄美大島



桜島

歴史



明治維新のふるさと、鹿児島

江戸時代、薩摩藩主であった島津斉彬は西洋の技術をいち早く取り入れて産業をおこし、国を強くしようとしました。また、西郷隆盛や大久保利通といった能力のある者には身分に関わらず、活躍の場を与えました。これらの人々の働きによって、薩摩藩は明治維新で大きな役割を果たしました。



西郷隆盛銅像

初 《鉄砲の伝来》

1543年、種子島の門倉岬に漂着した中国船に乗っていたポルトガル人により、日本に初めて鉄砲が伝わりました。島主の種子島時堯（たねがしまときたか）は、現在のお金で約1億円（およそ2,000両）という大金を払って2丁を購入し、それをもとに鉄砲を作らせました。やがて鉄砲は日本中へと伝わっていきました。



種子島火縄銃(南部鉄砲)

初 《キリスト教の伝来》

1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ＝ザビエルの一行がキリスト教の布教のため、鹿児島市の稲荷川河口付近に上陸しました。島津家の第15代当主、島津貴久（しまづたかひさ）の許可を得て、日本で初めての布教活動を鹿児島からスタートさせ、大分県や山口県などへも出向いて積極的に布教活動を行いました。



ザビエル滞鹿記念碑

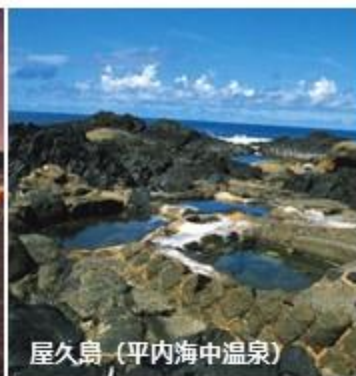
温泉

鹿児島は温泉王国

活火山がたくさんある鹿児島県には、火山の恵みにより県内各地に多くの温泉があります。源泉の数は全国第2位で、県内各地でさまざまな温泉を楽しむことができます。指宿名物「天然砂むし温泉」や、潮が引いた時にしか入ることができない屋久島の「平内海中温泉」など、珍しい温泉もたくさんあります。



指宿（砂むし温泉）



屋久島（平内海中温泉）

世界遺産

世界
文化遺産



旧集成館（反射炉跡）

世界
自然遺産



奄美大島

鹿児島が有する3つの世界遺産

鹿児島県には、1993年に日本で初めて世界自然遺産に登録された「屋久島」、2015年に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」のうち3つの構成資産、そして2021年に世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の3つの世界遺産があり、2つの世界自然遺産を有する唯一の都道府県です。

世界
自然遺産



屋久島

世界
自然遺産



徳之島

離島

南北約600kmに広がる数々の有人離島

鹿児島県にはたくさんの離島があり、有人離島の面積は全国第1位です。世界自然遺産の屋久島、奄美大島、徳之島をはじめ、ロケット発射場のある種子島、仮面神が現れる独特な祭りが今も伝承される十島村・三島村の島々、隆起速度が世界トップレベルの喜界島、鍾乳洞の美しい沖永良部島、砂浜の美しい与論島など、それぞれの島に多彩な魅力があります。



与論島



種子島

食

鹿児島県は北海道に次いで全国第2位の農業産出額を誇る農業県です。「黒牛」「黒豚」に代表される畜産業や「さつまいも」「茶」といった農業が盛んです。また、漁業は養殖部門を中心として盛んに行われ、「ブリ」や「カンパチ」、「ウナギ」などの養殖が県内各地で展開されています。マンゴーやタンカンなどの果樹も各地で栽培されています。また、魚のすり身を油で揚げた「さつまあげ」やフルーツが盛り付けられている練乳のかき氷「しろくま」など鹿児島ならではの名物グルメもいっぱいあります。



黒豚しゃぶしゃぶ

安納いも

さつまあげ

白熊

ブルー・グリーンツーリズム

盛んな農業・畜産業・漁業体験を通じて自然とともに生きる力を育み、人との交流を通して社会性を養う。

鹿児島県ではグリーンツーリズムの一環として山の自然と食の地域資源を生かした民泊型教育旅行に取り組んでいます。ブルーツーリズムでは県内の漁協協力のもと、養殖場での餌やり体験や魚を捌く体験、加工や料理をすることができます。温かな人々と自然の中で、生命や食について考えてみましょう。



平和学習

太平洋戦争末期、本土防衛の最前線となった地で戦争遺跡や資料館を訪れて戦時下の状況にふれ、平和と命の尊さについて学ぶ。

太平洋戦争末期、日本各地に基地や飛行機をはじめ数多く軍事施設が造られました。これらの基地は一部、特攻の基地として使用され、鹿児島県内の基地からも多くの特攻隊員が南の空へ飛び立って行きました。戦争の最前線に立たされた同年代の若者が残した家族への手紙を読み、講話に耳を傾け平和の尊さを学んでみましょう。



自然体験・環境学習

豊かな自然あふれる鹿児島をいつまでも守りつづけるためにできることなど身近な環境について学ぶ。

鹿児島県は、南北約600kmにもおよぶ広大な県土に、緑豊かな森林や美しい海岸線を有し、桜島や、我が国で最初に国立公園に指定された霧島、世界自然遺産の屋久島、奄美大島や徳之島をはじめとする特色ある島々など、豊かな自然に恵まれています。その豊かな自然の中での集団行動から協調性と連帯感を身につけ、豊かな感受性を育みます。自然の多様性を様々な体験を通して学ぶと共に、豊かな自然を守りつづけるために環境問題についても考えてみましょう。



歴史・文化

明治維新の礎となった近代遺産や多くの偉人が生まれた地を訪ねることで歴史の背景を学び、先人の精神にふれる。

鹿児島は幕末から明治初期にかけて日本史上、重要な舞台となり、西郷隆盛や大久保利通を輩出しました。これらの歴史を体感・学習できる施設や史跡をめぐり、歴史への理解と関心を深めましょう。また古代の生活を体験できる施設や現代アートの野外美術館などもあり歴史や文化について様々な角度から学ぶことができます。



その他

鹿児島ならではの個性あふれるプログラム。


鹿児島県には、種子島・内之浦に2つのロケット発射場があり、これまで数多くの人工衛星が、打ち上げられてきました。宇宙学習では最先端の宇宙科学技術にふれ、果てしない宇宙への夢を広げる一歩となることでしょう。また、定期船のターミナルや世界をつなぐクルーズの拠点など7つの港区で成り立っている鹿児島港、そして人々の生活に欠かすことのできない「ダム」など普段立ち入ることができない場所での見学で理解や関心を深めることができます。他にも、様々なここだけの学びが鹿児島県にはあります。




はじめに

事前学習で「何でだろう」と疑問を持つことから課題(問い)を見つけ、解決するための計画を立て、さらに学んできた知識や考え方、旅先で集めた情報から課題(問い)を解き明かしていき、自分だけの学びのノートを完成させましょう。

修学旅行学習ノート				
ステップ	章	テーマ	内容	ページ
事前学習	第1章	鹿児島を知ろう	鹿児島のイメージを書き出してみよう	P6
			今回訪問する場所に対するイメージを書き出してみよう	P6
	第2章	自分自身の興味関心を考えてみよう	興味を持ったカテゴリーや学びたいと思ったことを書いてみよう	P7
			自分自身の身の周りに関連するキーワードを書いてみよう	P8
			グループメンバーと一緒に取り組むカテゴリーや学びたいことを話し合ってみよう	P8
	第3章	深堀りしたいテーマを決めて問いを立てよう	学習のテーマを決めよう	P9
			テーマに沿って鹿児島のことを調べてみよう	P10
			調べたことに対する問いを立てよう	P10
			調べた中で自分が興味をもったことを書き出してみよう	P11
現地学習	第4章	情報を集め記録しよう	自分で見たこと・感じたことを記録しておこう	P13
			現地の人に質問してみよう	P14
事後学習	第5章	情報をまとめよう	現地で学んだことをまとめてみよう	P15
			現地で学んだことをグループで共有しよう	P16
	第6章	学んだことを発表しよう	発表する内容を整理しよう	P17
			発表しよう	P18
	第7章	今回の学習を振り返ろう	学習を通じて気づいたこと・感じたことを振り返ってみよう	P19
			解決しなかった問いや、さらに知りたいと思ったことを書いてみよう	P20
			今回の学習を通じて今後自分がどうしたいか考えてみよう	P20




このノートの
使い方



個人ワーク

自分の考えや感想を記入してください。
今の自分の置かれている環境や家族内での
取り組みなどを考えてみましょう。



グループワーク

グループで相談して気づいたことや話し合っ
てどういう結果になったのか、記入してみましょう。

第1章 鹿児島を知ろう

2つの半島と個性あふれる離島を持つ鹿児島県。「鹿児島」と聞いて皆さんはまず何をイメージしますか？「鹿児島ってどんなところ？」まずはここからスタートして旅行先のイメージをふくらませてみましょう。ここでは、何も調べずに自由な発想で考えましょう。

まずは、自分なりの鹿児島のイメージを書き出してみましょう。最初に抱いていた自分なりのイメージが学習後にどう変わるのかも学習のポイントです。



1 鹿児島のイメージを書き出してみよう

まずは自分なりの鹿児島のイメージについて思いつくものをどんどん書き出してみよう。



2 今回訪問する場所に対するイメージを書き出してみよう

今回の訪問する場所にどんなイメージがありますか？思いつくものをどんどん書き出してイメージを広げていきましょう。

**ご指導される方へ**

教育旅行の行程表を生徒に配布して取り組んでください。詳細が決まっていない場合は、候補となっている訪問先を共有するか、この項目を省略しても構いません。

自分自身の興味関心を
考えてみよう

修学旅行は日常では出会えない人との出会いや現地でしか体験できないことが体験できる貴重な学びの場となります。現地を訪問する前に自分自身の興味関心について考え、現地でどのような学びができるのか考えてみよう。

1

興味を持ったカテゴリーや学びたいと思ったことを
書いてみよう

P.3~4のカテゴリーを参考に。



2

自分自身の身の周りに関連するキーワードを書いてみよう



ご指導される方へ

生徒が訪問先で学ぶことを自分事として考えることができるように、日頃の生活環境や自身の進路などに関連するキーワードを出す項目です。ここで書き出したキーワードは、取り組むカテゴリーやテーマ選定の参考となるように促してください。

3

グループメンバーと一緒に取り組むカテゴリーや学びたいことを話し合ってみよう



深掘りしたいテーマを
決めて問いを立てよう

この章では、第1・2章での自分なりの考えをもとにグループのテーマを決めます。自分が思ったこと、感じたこと、疑問に思ったことなどを遠慮なく発言しましょう。自分の意見だけ主張するのではなく、人の意見にも耳を傾けるということも大切です。



自分たちが本当に知りたい、やりたいことをテーマにしましょう

「グループのみんなが興味も持ったことは何ですか？」というポイントで話し合うとテーマが見つかりやすいかもしれませんね。

1 学習のテーマを決めよう



決定テーマ

ご指導される方へ

前章の話し合いでテーマにまとめられない場合は、1つのグループで複数のテーマを設定しても構いません。

そのテーマにした理由も書きましょう

2

テーマに沿って鹿児島のことを調べてみよう



次のテーマを 見つけるポイント

調べて書きだす。この一連の作業をすることによって記憶にも残り、新たな知識になります。
「詳しく調べてみたい」と思ったことは何ですか？



ご指導される方へ

鹿児島県観光サイト「かごしまの旅」では、鹿児島県内の観光情報に加えて、教育旅行に関する学習資料も掲載していますので、参考にしてください。

https://www.kagoshima-kankou.com/houjin/study_article/about6/top

3

調べたことに対する問いを立てよう

P.12の問いの立て方のヒントを参考に。



ご指導される方へ

問いを立てる際、現地学習時にどうやって答えを探すのかもイメージできると良いです。また、訪問先の方に質問ができる場合は、質問の内容まで考えておくと良いでしょう。

自ら調べることで、興味や疑問が出てきます。

疑問や問題意識をもつことで、学びの原動力になる「問い」が生まれます。
インターネットや図書館、テーマに詳しい先生に取材をするのもいいですね。



4

調べた中で自分が興味をもったことを書き出してみよう



興味をもった理由も書きましょう。

問いの立て方のヒント

難しく考えずにまずは、「なんでだろう？」「どうしてだろう？」と疑問に思うことから問いを考えてみましょう。



問いの種類

「問い」の特徴	「問い」の例
① 原因（なぜ）を問う「問い」 →その事象や状況、結果に対する原因は何か？	<ul style="list-style-type: none">■ なぜ鹿児島は〇〇なのか？■ なぜ鹿児島では〇〇が盛んなのか？■ なぜ鹿児島で〇〇が起こったのか？
② 比較をおこなう「問い」 →他の対象と比較することで、その程度や異なる側面を知る	<ul style="list-style-type: none">■ 〇〇はどれくらいのレベルなのか？ (程度の比較)
	<ul style="list-style-type: none">■ 他の地域ではどうなのか？■ 〇〇のための条件は何か？ / 異なる条件ではどうなるのか？ (他の地域や条件との比較)
	<ul style="list-style-type: none">■ 過去と比べて〇〇はどのように変化しているのか？ (過去との比較)
③ 影響を問う「問い」 →実際に今、どのような影響が生じているのか？ →今後どのような影響が生じるのか？	<ul style="list-style-type: none">■ 〇〇はどのような影響をもたらしたのか？■ 〇〇によって今後どのようなことが起こるのか？ (影響)
④ 方法や関連性を問う「問い」 →どのような方法を用いるのか？ →その事象や状況にはどのような関連があるのか？	<ul style="list-style-type: none">■ どのようにして〇〇はおこなわれているのか？■ 〇〇と△△にはどのような関連があるのか？

第4章 情報を集め記録しよう

現地で、グループテーマや問いに沿って情報を集めましょう。施設の方やガイドさんに質問をしましょう。歴史や文化、そこに暮らす人たちとの触れ合いを通して「問い」の答えを見つけるとともに、新たな発見もあるでしょう。

テーマを細分化して必要な情報を集めるとまとめやすいよ

現地を見て感じたことや、気づいたことをメモで残しておきましょう。
人の名前や場所も残しておけば、後の振り返りの時に役立ちます。



1 自分で見たこと・感じたことを記録しておこう





学習ポイント

情報を集めるときのポイントは訪れる場所を「取材」することです。目的を持って、事前に質問事項を整理しておきましょう。写真や動画を撮っておくことも現地での記憶のためにおすすめです。

第5章 情報をまとめよう

1 現地で学んだことをまとめてみよう

現地で集めた情報を整理して問いの答えを見つけていきましょう。

旅先で見つけた様々な情報を見返してみましよう。



2

現地で学んだことをグループで共有しよう



第6章 学んだことを発表しよう

この章ではこれまでの学習を聞き手に伝えるために発表をします。
相手に伝えようとすることで、これまでの活動を再認識できます。他のグループの発表を聞いてアドバイスをしたり、されたりすることで今後のよりよい発表につながります。

1 発表する内容を整理しよう

誰がどのような順番で発表するかなど事前に段取りを決めましょう。グループでの活動を思い出し、問いの答えを明らかにしてきたらどうか？印象に残ってる場面はどこだろうか？などグループメンバーと活動を振り返り、話したことを書き留めておきましょう。

1. グループのテーマ

2. 一番伝えたいことを決めよう

3. 発表する内容を箇条書きにしよう



発表の仕方を工夫することで面白さが倍増します。

発表のやり方もスライド、レポートなど様々な方法があります。
グループでオリジナルの新聞を作るのもいいですね。記者や編集者になった気分も味わえると思います。
必ずしもまとめたことを発表するだけでなくもいいです。楽しく取り組める発表方法をグループで話し合うのもいいですね。



人前で発表するというだけで、自信にもつながります。

よりよく発表するために、グループ内で繰り返し練習し、アドバイスし合うことも大切です。また自分たちの練習を動画に撮り、見返すことも効果的です。

他のグループメンバーからも感想を聞き、新たなステップへつなげましょう



2 発表しよう



自分のグループへの意見やコメントをもらおう

他のグループの発表で気づいたことを伝えよう



学習ポイント

本番の発表を聞いて、他のグループのよかったところや参考になるところを書き出しましょう。
書き留めておくことで記憶にも残り振り返りに役立ちます。

この章では、これまでの学習内容を振り返ります。全体を振り返ることで、自分自身の内面の変化にも気づくかもしれません。自分の住む地域でも修学旅行を通した学びを身近な問題として考えることができるでしょう。

これまでの記録を見返して、探究的な学びを振り返りましょう。

これまでに取り組んできた「テーマを決める」「問いを立てる」「情報収集する」「情報をまとめる」「発表する」という一連の活動が“探究的な学び”です。



1 学習を通じて気づいたこと・感じたことを振り返ってみよう

第1章で書き出した学習を始める前に抱いていた自分のイメージと学習を終えた後で、イメージが変わったことや新しい気づきなどありましたか？振り返って感じたことを書きましょう。



2

解決しなかった問いや、さらに知りたいと思ったことを書いてみよう



学習を始める前には気づかなかったことを見つけることはできたでしょうか？
学習を終えた自分に向けて、率直な気持ちを言葉にしてみましょう。



3

今回の学習を通じて今後自分がどうしたいか考えてみよう



ご指導される方へ

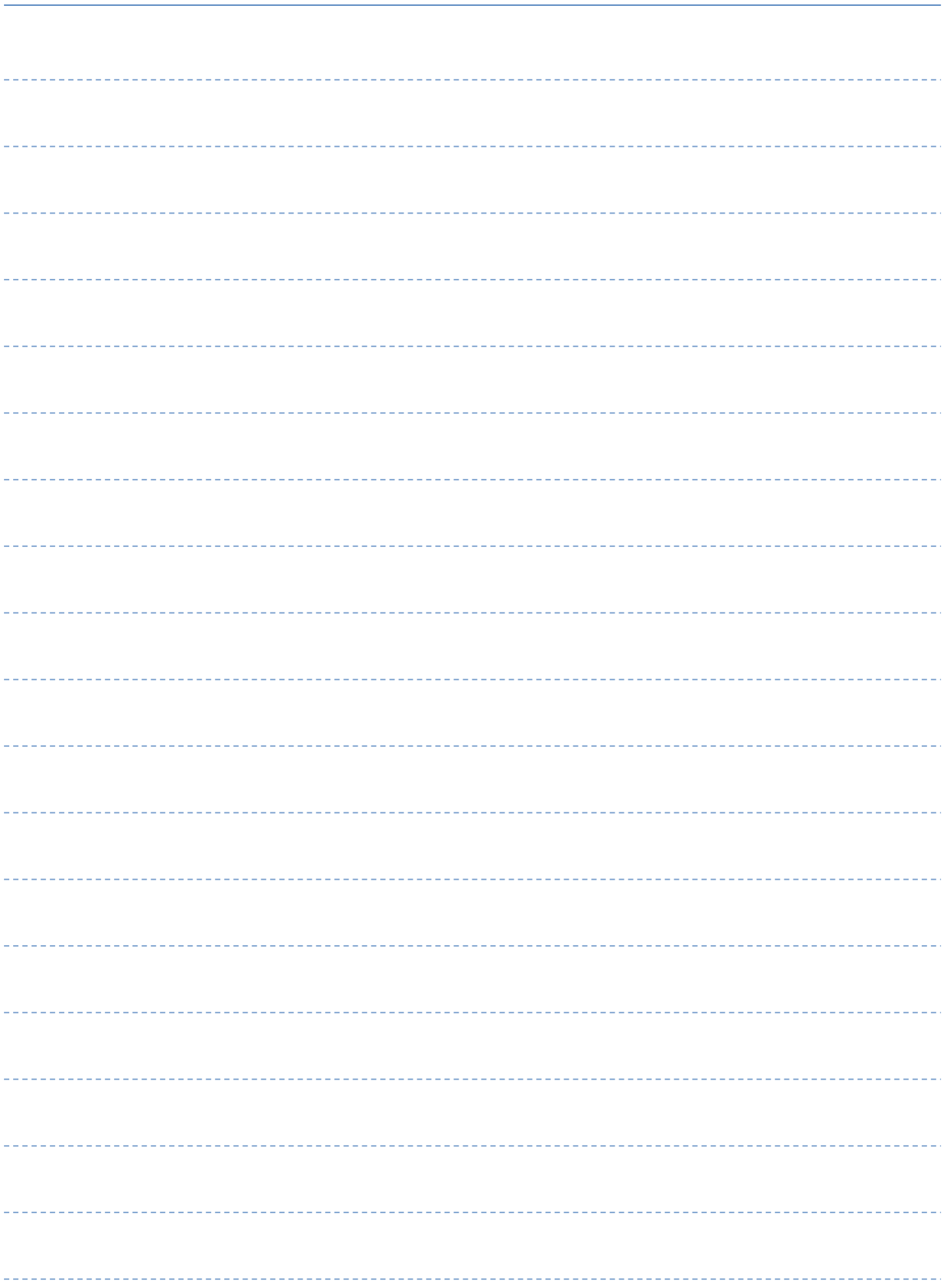
事前学習・現地学習を通じて得た学びを日々の生活で実践することや、新たに生まれた問いの答えを探ることなど、自身の次の行動を考えることで、知識の習得だけに終わらないようにしましょう。



学んだことを自分の住む地域と比べてみることによって、より身近な問題として考えられます。



住んでる地域のことを今まで深く考えたことがなかったな。





鹿児島県観光サイト

かごしまの旅



鹿児島県